

校内研修計画

1 学校課題

昨年度、「学校における食育推進事業」の指定を受け、「自産自消」をキーワードに教育活動全体を通して、児童の食と健康を考えた食育の推進を図ってきた。塩山北小学校は、住宅地と農地が混在する学区であるが、身近に農作業を体験できる良い環境があっても、児童が農作業の手伝いをほとんどしていないのが現状である。昨年度の食に関する取り組みを通して、児童は、自ら野菜を育てその野菜を収穫し食する体験をし、育てる苦労や収穫の喜び、食材のもつおいしさなど多くのことを学ぶことができた。また、「お弁当の日」の取り組みでは、自らお弁当作りを行うことで、栄養バランスや調理について基礎的な知識・技能を身に付けるとともに毎日の食事を作ってくれる家族への感謝の気持ちをもつことができた。しかし、「自分で育てた野菜などを食べる子どもの割合」「好き嫌いの数の減少」など6つの評価指標で全てに向上が見られた中で、朝食摂取率は96%とかなり高いが、「バランスをとれた朝食を毎日食べる子どもの割合」となると79%、「バランスのよい食事を意識している子どもの割合」は89%となり、朝食の食事内容や栄養バランスのよい食事の摂取などが、新たな課題として考えられる。

2 研究主題

意欲的な学習集団を育成する効果的な「食育プログラム」の開発

3 主題設定の理由

(1) 社会的な課題から

近年、社会情勢がめまぐるしく変化する中、食生活において、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、個食や孤食、朝食の欠食、過度の痩身傾向など「食」に関する様々な問題が生じている。また、核家族化や技術革新等により、子ども達を取り巻く「食環境」も大きく変化してきている。そのような状況の中、子ども達に対して豊かな「食育」を行うことは、心身の成長及び人格の形成、学習意欲の向上など、生涯にわたって健全な心と体を培い豊かな人間性を育む基礎となるものと考えられる。家庭や地域との連携協力を模索し、児童の健全育成に努めたいと考える。

また、平成28年度「スーパー食育スクール事業」の指定を受け、拠点校として家庭・地域とも連携した効果的な「食育プログラム」開発し、「意欲的な学習集団の育成を図りたいと考える。

(2) 甲州市の学力向上の取り組みから

平成19年度より実施されている「全国学力・学習状況調査」などの結果から、甲州市の子ども達は知識を活用する力や学習意欲・学習習慣、家庭学習などに課題があることが明らかになった。その結果を受け、市内各校では課題の改善に向け、取り組みを行ってきた。平成23年度からは、「甲州市『確かな学力』育成プロジェクト」を立ち上げ「授業改善」「学級づくり」「保護者地域との連携」を軸に「確かな学力」の向上に向けて取り組みを実践し、評価を行ってきた。これまでの取り組みの中で、甲州市の課題として挙げられていた、児童生徒の学習に対する意欲や生活習慣、協働的な仲間関係などは、学力を支える要素として非常に大きな意味を持つことがあらためて明らかとなった。そこで、今年度はこれらの点を改善し、学力の向上を図るため、様々な食に関するアプローチを通して学力の素地を育成したいと考える。

(3) これまでの研究から

本校では、昨年度「食と健康について考え、自ら実践する児童の育成～自産自消による食育の推進を通して～」を研究主題に研究を進めてきた。学校が家庭・地域と連携し、教育活動全体を通して、食に関する体験的な活動を取り入れた研究実践を行うことにより、食と健康に関して能動的に行動できる児童が育ってきたことが、児童及び家庭におけるアンケート結果の児童の変容から見取ることができた。今年度は、昨年度までの成果を生かし、食育における体験活動や教科・領域における授業実践において、Q-Uの取り組みを生かしながら集団の力やつながりを充実させ、さらなる学級集団の成長につなげたいと考える。

また、家庭・地域も含めたチーム学校体制で、アクティブラーニングの視点に立った「自産自消」による「食育プログラム」を効果的に実践することにより、「能動的に食にかかわる児童の育成」など学力を支える素地を高め、学力を支える基盤としての「意欲的な学習集団の育成」を図りたい。

4 研究仮説

チーム学校体制で、アクティブラーニングの視点に立った「自産自消」による「食育プログラム」を効果的に実践することにより、学力を支える基盤としての「意欲的に取り組む学習集団」の育成が図られるであろう。

5 研究の具体的内容と方法

(1) 具体的内容

- アンケート調査による児童の実態把握（調査・分析）
- 食育プログラムの実践及び開発
- 食育及びアクティブラーニングに関する理論研究
- 教科・総合的な学習の時間、学校行事、児童会活動において食に関する体験活動の重視と学びの足跡がわかるワークシートの作成
- 授業研究（年2回）及び一人一実践（授業参観における食育授業の公開）
- 家庭・地域との連携（家庭・地域への啓発、朝食摂取率の向上）
- Q-U調査の実施2回とK-13法による分析

(2) 研究の方法

- 実態把握のためのアンケート（児童用・家庭用）を実施・分析し（5月・12月）、児童の変容を捉える。
- 学校教育全体を通して自産自消の活動を取り入れた「食育プログラム」の開発を行う。
- 講師を招聘しての学習会や講演会を行い、食育及びアクティブラーニングに対する知識・理解を深める。
- 栄養教諭を中核とした授業研究会（年2回）を行い、互いに学び合う場を設定して、アクティブラーニングの視点にたった食育授業について考察する。
- 家庭・地域と連携し、食育便りやレシピ集の作成、PTA新聞での情報発信や啓発を図る。
- Q-Uテストの実施と分析（K-13法）をし、その成果を活用した集団づくりに取り組む。

6 年間研修計画

回	月	日	研究内容	備考	TC要請
1	4	13(水)	本年度研究の方向性と概要	全体会	
2		25(金)	本年度校内研究の計画と研究の組織づくり	全体会	
3	5	11(水)	部会研究の方向性(テーマ, 研究内容と方法等)	部会	
4		27(金)	Q-Uの結果分析(K13法)	全体会・部会	
5	6	8(水)	アクティブラーニングについての学習会	全体会	○
6		13(月)	部会研究 授業づくり・ワークシート作り	部会	
7	8	17(水)	教育課程還流報告 部会研究	全体会・部会	
8	9	7(水)	部会研究 授業づくり	部会	
9		14(水)	部会研究 授業づくり	部会	
10	10	5(水)	授業案検討Ⅰ	全体会	
11		12(水)	部会研究 授業づくり	部会	
12		26(水)	研究授業Ⅰ	全体会	○
13		30(日)	日曜参観(第1回お弁当の日)		
14	11	2(水)	授業案検討Ⅱ	全体会	
15		9(水)	部会研究 授業づくり	部会	
16		21(金)	研究授業Ⅱ	全体会	○
17	12	2(金)	「確かな学力育成P」教育講演会		
18	1	16(月)	部会研究のまとめ	部会	
		25(水)	「確かな学力育成P」授業づくり講演会		
19	2	6(月)	第2回お弁当の日(5, 6年生)		
20		17(水)	本年度研究のまとめ 来年度へ向けて	全体会	
21		24(水)	本年度の研究の成果と課題	全体会	
22	3	5(水)	研究紀要作成	全体会	

